

河野ワクチン担当大臣と三村会頭 との意見交換



2021年5月17日

1. 河野大臣からの現状報告

日時：2021年5月12日（水） 16:00～16:30

場所：丸の内二重橋ビル6階 役員会議室

出席者：（内閣府側）河野大臣、伊藤内閣府政策参与、斎須内閣参事官ほか
（日商側）三村会頭、石田専務理事、久貝常務理事、荒井事務局長ほか

河野大臣からの現状報告

- 7月末までの高齢者（3600万人）へのワクチン接種完了に向けて、6月末までに、全員分（7200万回）の供給できるようになった。ワクチン供給面の課題は解消した。高齢者の皆様には、希望される全員が必ず接種できるので、ご安心いただきたい。
- いかに円滑に接種を進めるかが次の課題。ワクチン打ち手の拡大は厚労省と検討中。自治体での接種に加え、大規模接種会場を設置する（5月承認予定のモデルナ利用）設置準備中：群馬、埼玉、愛知、東京、大阪、兵庫、福岡

以上の現状報告の後、河野大臣から3点の協力依頼があった。

2. 河野大臣からの協力依頼

河野大臣からの協力依頼（3点）

①産業医や企業内診療所による、現役世代等に対するワクチンの職域接種

- ワクチン接種を加速化する観点から、産業医や企業内診療所でのワクチンの職域接種に協力いただきたい。
- 当該企業社員の他、余力に応じ、近隣の高齢者への接種にも協力いただきたい。
- 現在の高齢者等への接種の段階から協力いただきたい（65歳以上の社員等）。

②ワクチンの副反応等に備え、各企業におけるワクチン休暇等の取得促進

- ワクチンの副反応（特に2回目の接種で発現の可能性有）に備え、ワクチンの社員の計画的な接種とあわせて、特別休暇の創設、有給休暇取得促進、病欠や出勤扱いにする等、各企業の実情に即した対応をお願いしたい。

③ワクチンパスポート（接種証明書）の利活用への意見照会

- 海外でワクチンパスポートの議論が進んでいる。国際往来、水際対策として、不可欠。最初からのデジタルでの発行は難しく、最初は、自治体協力のもと、紙媒体での対応を考えている。
- 国内での利活用は検討中である。パスポートの利活用などについて、ご意見があれば、教示いただきたい。

3. 三村会頭からの要請等

三村会頭からの要請

- 海外では、ワクチン接種の進展により、感染者や重症者は確実に減少している。欧米では、大量接種による感染収束を見込み、経済回復への歩みが加速している。
- ワクチンは、感染抑制とともに、経済活性化の希望であり、大いに期待している。河野大臣には、より一層の力強いリーダーシップの発揮をお願いしたい。
- 「1日100万回」という政府目標は分かりやすい。目標実現のボトルネックは何かを具体的に議論し、解消して、計画的に取り組み、実現していただきたい。
- 接種の迅速化へのボトルネック解消に向けて、以下を要請
 - 国民の不安払拭のため、毎日の接種実績の新聞やTV等のメディアを通じての公表
 - ワクチンの打ち手の拡大
 - 高齢者への予約サポート
 - ワクチン接種に関するシステムのデータ連携の拡充、システム一元化の検討
- 職域接種は、接種の迅速化に資するので、可能な限りで協力していきたい。
- ワクチンを社員に接種してもらうことは、安心して経営を進める上で優先的に対応すべきもの。ワクチン休暇は、各社の実情に即した形で取得を促していきたい。
- ワクチンパスポートは、国際往来や水際対策のため、各国と連携・標準化を進め、デジタルでの発行システムを早期構築が必要。国内での利活用は、民間資金を活用した需要喚起につなげる方策として、差別防止に留意しつつも検討を進めるべき。
- 国家安全保障の観点から、国産ワクチンの開発・生産・供給を実現いただきたい。国産の治療薬も進めてほしい（特例承認等）。